

## 沖縄県における小児のHTLV-I抗体スクリーニング

安次嶺 馨

**要約：**沖縄県立中部病院の小児科外来受診者107人にPA法でHTLV-I抗体のスクリーニングを行なった所、陽性者は6人(5.6%)であった。1歳未満10人を除くと陽性者は97人中3人(3.1%)であった。また同様の方法で看護学校生徒293人中陽性者は12人(4.1%)であった。

**見出し語：**HTLV-I抗体、小児

**研究方法：**沖縄県立中部病院小児科外来受診患者で、諸種検査のため採血を必要とした者107人について、HTLV-I抗体をPA法で測定した。また沖縄県立の看護学校生徒293人についても同様の方法で測定した。

**結果：**小児科外来患者の年齢は1カ月から19歳に及ぶ。HTLV-I抗体陽性者は6人で全体の5.6%にあたる。1歳未満は10人で、そのうち1カ月、3カ月、6カ月の3人はHTLV-I抗体陽性である。これらは母体からの移行抗体と考えられる。1歳未満児を除く97例中HTLV-I抗体陽性者は3例(3.1%)であった。

看護学校生徒293人中、HTLV-I抗体陽性者は12人(4.1%)であった。

**考察：**沖縄県はHTLV-Iの浸淫地のひとつ

で、HTLV-I抗体の陽性率は高い。

中野らが沖縄県の妊婦2232人(18歳~42歳)に行なったHTLV-I抗体スクリーニングでは6.8%に陽性者をみた<sup>1)</sup>。中野らはこのようなキャリアの母親から生まれた児の80%にHTLV-I感染を証明した。

しかしながら、沖縄の小児のHTLV-I抗体保有率についてのデータは殆どみられない。鹿児島県の1歳~15歳の小児758人について、間接蛍光抗体法による検査では、HTLV-I抗体保有率は0.9%であった<sup>2)</sup>。今回のPA法によるスクリーニングでは、1歳以上の小児の3.1%が陽性であった。陽性者について、間接蛍光抗体法を実施し、より正確な抗体保有率を求めたい。

同様に、看護学生についても、間接蛍光抗体

沖縄県立中部病院

(Okinawa Chubu Hospital)

法を行えば、PA法の4.1%より低い抗体保有率がえられるであろう。

文献

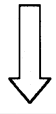
- 1) 中野司郎：成人T細胞白血病ウイルス（ATLV）の母児感染について。  
日産婦誌；38：2274，1986.
- 2) 楠原浩一他：鹿児島地方における小児のHTLV-I抗体保有状況—特に輸血歴との関係について—  
日見誌；91：2984，1987.

沖縄県立コザ看護学校生徒の  
抗HTLV-I抗体検査成績  
(PA定性法による)

|        |     |
|--------|-----|
| 被検者数   | 293 |
| 陽性者数   | 12  |
| 陽性率(%) | 4.1 |

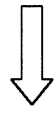
沖縄県立中部病院小児科外来患者の  
抗HTLV-I抗体検査成績  
(PA定性法による)

| 年齢     | 被検者数 | 陽性者数 | 陽性率(%) |
|--------|------|------|--------|
| ～12カ月  | 10   | 3    | 30     |
| 1～5歳   | 34   | 0    | 0      |
| 6～10歳  | 27   | 2    | 7.4    |
| 11～15歳 | 31   | 1    | 3.2    |
| 16～19歳 | 5    | 0    | 0      |
| 合計     | 107  | 6    | 5.6    |



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:沖縄県立中部病院の小児科外来受診者107人にPA法でHTLV-I抗体のスクリーニングを行なった所、陽性者は6人(5.6%)であった。1歳未満10人を除くと陽性者は97人中3人(3.1%)であった。また同様の方法で看護学校生徒293人中陽性者は12人(4.1%)であった。